

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務機構	担当部局：教務機構
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.2 教育課程・教育内容	
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ（学部） コースワークとリサーチワークのバランス（院）	
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部） 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部） 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院） 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院）	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 共通学士力に係る施策を推進する組織を設置する。	→新組織「共通教育センター（仮称）」の設置	A	A	A	A	/
2. 全学開講科目として提供している各種授業科目群を全学共通プログラムとして再編し、学内外に明示する。	→共通教育科目群の体系の明示	C	C	B	A	/
3. 全学共通プログラムに初年次教育科目群を新設する。	→初年次教育科目群の体系化	C	B	B	A	/
4. 共通教育、専門教育についてカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを提示し、学習の道標とする。	→カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの作成	C	C	B	B	/
5. MDS、ジョイントディグリー制度の改善を図り、MDS修了者数及び二学位取得者数を増加させる。（目標6、7に修正）	→MDS修了者数を1.5倍、及び二学位取得者数を2倍にする。	C	C	/	/	/

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
6. MDS制度の改善を図り、MDS修了者数を1.5倍にする。（目標5より修正）	→MDS修了者数	/	/	C	B	/
7. ジョイント・ディグリー制度の改善を図り、二学位取得者数を2倍にする。（目標5より修正）	→ジョイント・ディグリー制度による二学位取得者数	/	/	C	B	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2010年4月、共通教育センター設置完了。
目標2	国際化の進展に伴う科目増加、キャリア関連科目の充実などの背景から、2012年度に全学科目の学則改正を行い、「言語教育科目」「スポーツ科学・健康科学科目」「情報科学科目」「グローバル・スタディーズ科目」「ライフデザイン科目」「基盤・学際科目」の6つの科目カテゴリーに再編した。
目標3	目標2のとおり、初年次教育科目群ではなく、「基盤・学際科目」群の「基盤科目」として初年次教育科目関連をカテゴライズした。なお、2011年度に新設した「スタディーズスキルセミナー」は、2012年度現在4科目全20クラスを開講している。
目標4	カリキュラムマップは、学部教育の専門科目において2011年度に全学部が作成した。しかし学部間においてバラつきがあるので今後はDPとの整合性を検証していく過程でその高度化を全学的に統一して進めていく必要がある。なお、FD推進の観点で現在、各学部においてナンバリングの取り組みを推進しているため、カリキュラムツリーの策定には踏み込んでいない。ナンバリング導入済み学部は法学部、経済学部の2学部となっている（その他、国際教育・日本語教育プログラム室科目で一部導入済み）。
目標5	
目標6	2012年度登録者（172名）は2010年度の登録者（86名）の2倍となった。しかし、一方で修了者は微増（2010年度：23名→2012年度：28名）に留まっている。なお、2011年度より大幅に増えた登録者が修了の時期を迎えるのは、2015年3月である。
目標7	2012年度のジョイント・ディグリー制度による編入学試験合格者は13名、同2学位取得者は9名と、前年度よりはわずかながら増えている。また、2014年度入試より神学部が同制度に加わる。MDS登録者がジョイント・ディグリー制度による編入学試験を受験し、二つ目の学部を卒業する2015年3月および2016年3月に目標達成の成果が見えてくるが、さらなる目標達成のためには、ジョイント・ディグリー制度による編入学試験を実施する学部および3年早期卒業制度を導入する学部を拡大することが今後の課題である。
備考	